

平成 19 年 6 月 25 日

各 位

会 社 名 **株 式 会 社 ヤ マ シ ナ**
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 谷 川 満
(コード番号：5955 大証第 2 部)
問 合 せ 先 総 合 企 画 部 長 秋 山 由 光
TEL 075(591)2131

”工場内物流の合理化”導入について

1. 要 旨

ヤマシナでは、収益向上策の一環として“工場内物流の合理化”を本格導入することとし、今般、そのファーストステップとして、“自動倉庫”を設置しました。

2. 導入目的

これまでヤマシナでは、約 3,000 m²の床面積を使用し、スチール棚を平置きにして製品などの管理を行っていましたが、この場合、入出庫作業はフォークリフトと人手によって行われ、人員負担のほか、データベースのインプット・アウトプット、製品との照合、伝票の貼り付け、目視による出し入れなど多大な手間をかけており、また、これら作業がヒューマンエラー誘発の要因ともなっていました。

今回、コンピュータ制御による自動倉庫の導入を行ったことにより、工場内物流の合理化、スピードアップを図ることができます。

また、データベースと製品出し入れとの間に必要であった“人”の介在をなくすことで入出庫作業をコンピュータの直接作業とすることができ、徹底した省力化を図れるほか、先入れ先出しエラー、誤発送、不動態発生などのヒューマンエラーを排除するなど、経費削減、ロス削減による収益向上への取り組みを推進します。

加えて、本社倉庫の格納量が約 1.4 倍となったことで、これまで営業所に発送し、営業所倉庫での管理としていた製品も大半を本社倉庫での管理に切り替え、本社からお客様への直送とすることによって運送費、管理費のコストも削減できることとなり、これら自動倉庫導入による物流業務コスト削減の効果は、従来比約 20%減を見込んでいます。

さらに、自動倉庫を本社第 5 工場内に導入したことによって本社別棟、第 4 工場に散在していた入出庫、検査、選別、包装、発送、トラックヤードのラインを今後、段階的に集中させてコンバクトにすることが可能となり、合理化、物流のスピードアップのほか、自然環境対策、労働環境対策を集中できる本格的な“工場内物流の合理化”として今年度中に完成する予定です。

3. 設備概要

自動倉庫： トヨタ L&F 社製 “ラックソーター P”
面 積： 555 m²
最大高さ： 8m
ラック数： 1,050 ラック

4. 導入資金

本件自動倉庫の導入費用は約 50 百万円で、今後、“工場内物流の合理化”には、100 百万円内外の支出を見込んでいますが、これまで平置き倉庫として使用していたスペースを含む旧トーヨーボール跡地を本年 4 月に総額約 15 億円で売却しており、その資金の一部は本件を含め合理化、省力化に利用いたします。なお、引き続きヤマシナの収益改善に向け上記売却資金も有効に活用し、早期の営業黒字化、復配を目指しての努力を積み重ねてまいります。

“工場内物流の合理化”に伴う経費、想定効果は、本年 5 月 15 日公表の当期業績予想に含んでおります。

以上